



AJU 愛実

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)

第18号 会報

定価：一部50円

理事長 島しづ子より	P1
事務所より	P2
愛実友だちの家のページ	P3~4
大地の家のページ	P5~6
紙風船のページ	P7~10
「人格の根っこ」／南 寿樹	P11
定例会報告	P12
小窓から	P13
寄付者名簿	P14



愛実友だちの家
「フルーツ大好き」



大地の家
「しあわせ村にて」



紙風船
「七夕」

誰もが大事にされる社会を求めて 理事長 島 しづ子

25年以上も前のことです。娘が学齢期になった時、近くの小学校に就学の為の検診に行きました。身体も知恵も重度の障がいなので入学許可がでそうにありませんでした。普通校に通学を認めさせ、許可されても付き添って通い続けるエネルギーは私にはありませんでした。それで通学バスで一時間近くもかかる港養護学校に通いました。二年目からは引越して家の目の前に小学校があるのに一時間もかけて港区まで通う矛盾を感じました。それでも、娘が養護学校に通う朝、「通う場所があるっていいなあ」と思いました。道の景色やあの時の心模様を今も鮮やかに思い出します。「高等部卒業後は、毎日家になるなあ～そしたら、朝は辛いなあ～」と思いました。だから遠くても毎朝通える養護学校があることに感謝しました。それまでの重度の心身障がい児は就学猶予（親が子を就学させなくてもいいという名目）という形で学校教育は受けられなかったのです。きっと先輩の親たちが努力して重度の障がい児も通える環境を作り出してくれたのでしょう。ありがたい、じゃ、わたしたちも次のステップのために環境づくりをしなくちゃ！という思いで、同世代の親たちと養護学校卒業後の場所づくりを始めました。同じ思いの親たちに出会えた事も有り難いことでした。

志を掲げてから約24年。名古屋市内には愛実の会と同じような経緯で作られてきた多くの施設が存在し、養護学校を卒業した方々を迎え入れています。どこも涙と汗の賜物です。愛実友だちの家、紙風船、大地の家も多勢の方々の愛の結果です。最近の新人メンバーは18歳です。メンバーさんのご家族に伺うと卒業後の施設づくりを考えたこともないと答えます。「そうか、作ってきてよかった！」という気持ちと、「そうかなあ～」という気持ちになります。障がい者の受け入れ先があるべきことはあたりまえのことです。でもそのあたりまえのことは作り出してきた親たちや協力者の愛の結果だということを忘れて欲しくない！そう思うのです。

見学に来られた親御さんたちに言ったことがあります。「私たちはこういう施設が欲しいと思って作ってきました、それでも子どもにとってはこれで良いとは言えない事だってあるかもしれません。だから既成の施設に頼るだけではなく、望ましい施設を自分たちで作ることも考えて欲しい。」実業家でも、福祉の専門家でも、社会活動家でもない親が、たまたま子どもが障がい児であったからと言って、率先して施設を作るというのも変な話だと思います。でも現実には身近な親が訴え動かなくては始まらない社会であれば仕方ありません。

愛実の会はアシスタントの努力によってデイケアの介助は充実しています。しかし、デイケア以外の時間帯、メンバーは自宅で親の介護を受けています。親も年を重ね、居宅介護やショートステイの需要が増すばかりです。愛実の会は（有）たんぼぼや他の施設と協力しながら精一杯メンバーの地域生活を支えたいと願っています。障がい児の親たちの合言葉は「地域で親亡き後も安心して委ねられる場所作り」でした。実は親が存命中の今も、地域生活を支える基盤が充分とは言えません。高等部卒業後の話ばかりではなく、長い人生を委ねられる施設作りが課題となっています。

かつてお母さんたちに「大事に育ててきた子どもを大事にしてくれる社会を作りましょう」と言いました。その課題は施設の草創期からみたら、第二世代の親たちやアシスタントたちに受け継がれようとしています。若い保護者の皆様も、先輩たちが作り出してくれた環境から、次の環境づくりに手を貸してください。大変ですが、理想を掲げて歩むに値する仕事です。いつか、後輩たちから「先輩たちが苦勞して準備してくれたんだね！」と喜んでもらえたら嬉しいではありませんか。

涙をもって種まくものは、喜びの声をもって刈り取る。(詩篇 126 篇 5 節)

「忙しさ」

中森 由哉

忙しいの「忙」は心を亡くすと読める、ということを知ったことがあります。では何故忙しいと「心を亡くす」ことになるのでしょうか。心が本当に亡くなってしまうということは有り得ないのではないか、という気がします。

実際のところ、「心が亡くなる」とはどういうことかなと思うとき、心の働きの一番のことは何かを「自分が思う・感じる」ことかな、という気がします。

そして、あれもしなければ・これもしなければならぬ・こんなにやらなければならないことがあるのに全然追いついていない、という経験は多くの人にあるのではないのでしょうか。

その時の「心」の状態は、置かれている状況のことで心が一杯になってしまっ、自分が何かを思う・感じるどころではなく、ただただ状況に支配されてしまっているというのが「心を亡くす」ことかな、と思います。そういう状態が一番なりやすいのが忙しすぎる時ではないかと思えます。

そうは言うものの、では無責任に自分の仕事や役割を放り出すわけにはいかないでしょう。ただ、やらなければならないと思っている仕事や役割の中で、今すぐやらねばならないのか後回しでも良いのかを区別したり、本当に絶対外せない仕事や役割なのかを見つめ直したりすることは大切で、それをするによって状況は変わってくるようにも思えます。

私はいつの間にか休みなく働いてしまい、優先順位を決めることが難しくなっていました。意識的に休暇をとってみたら自分を振り返ることができました。自分の思いを大切に、感じる心を失わないためには、意識的に「休息すること」が必要で、「休息すること」によって、働き続けるよりも能率が上がることを実感しました。休むこと、時には現場を離れることが大事だと思いました。



防災の取り組みのご紹介 ～東日本大震災を受けて～

大野 義徳

このたびの東日本大震災で被災された地域の皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

被害の状況が明らかになるにつれて、私ども NPO 愛実でも事態を深刻に捉えております。ここデイセンター愛実は、伊勢湾まで1km、近くを流れる堀川まで400mという立地でもあり、とくに東海・東南海・南海地震発生時の津波対策の策定作業を、委員会を立ち上げて行っております。また、ここは昔貯木場だったところを埋め立てた土地という関係上、地盤の液状化の影響も念頭に置かなければなりません。

これまで、津波警報発令時には隣のマンションの上階へ避難させていただくよう計画しておりました。しかし今回の震災を受けて、さらに具体的な計画の必要性、防災用具や備品の充実を切実な問題として気づかされました。これまで、備蓄用水や食糧を増やし、ヘルメットや持ち出し袋をそろえ、発電機や雨水タンクを購入いたしました。また隣のマンション自治会へあらためてご挨拶に伺い関係を深め、避難計画もデイ開催時のみならず送迎時にはどうするかなどもっときめ細かく具体的な計画を作っております。地域社会との交流や、私どもの避難訓練もこれまで以上に充実させていこうと考えています。

防災備品の充実など予算との兼ね合いもありますが、防災への取り組みは私どもにとっての大きな課題と認識しています。これまで同様、皆様のお力添え、応援をお願い致します。

愛実友だちの家のページ

(P3~4)

今年の夏は、気温が乱高下して、体調を整えるのが難しかったですね。まだまだ暑い日が続き、蝉もまだ夏だぞと言わんばかりに鳴いていますが、朝晩の風の中にほんのり秋の匂いを感じます。夏の間、あまりの暑さに普段の散歩も控え気味でしたので、室内やテラスで夏らしく、涼し気な活動を中心に過ごしてきた愛実友だちの家です。今回の会報18号では、収穫の最盛期を迎えた園芸の様や、夏ならではの活動の様子、そして、ボランティアの方々による素敵な演奏会のことについてお伝えしたいと思います。

○大豊作○

今年度の園芸はミニトマト、バジル、ミニキャロット、マリーゴールドの栽培に挑戦しました。

五番町で暮らしている頃も、駐車場の脇に畑を作り、ミニトマトやかぼちゃ、ハーブの栽培に挑戦したことがありました。日当たりの良い場所だと思っていたのですが、北側だったからなのか、なかなか育たず、茂ってくるのは雑草ばかり。伸び放題のかぼちゃのつると、雑草を見間違えてかぼちゃのつるをちょん切ってしまったたり、ようやく実ったミニトマトを鳥に食べられてしまったりと、猫の額ほどの畑なのに、野菜を育てることはとても難しくて手間の掛かることなのだ痛感したものでした。

木場町ではプランターでの栽培なので、地植えにするよりもっと難しいだろうと覚悟していたのですが、開けてびっくり！ミニトマトもバジルも大豊作！

つやつやのミニトマトは糖度の高いアイコとベリーという品種。皮が厚目なので食べるときは湯剥きして、サラダやパスタに添えて美味しくいただきました。

バジルはミキサーにかけてオリーブオイル、にんにくのすりおろしを混ぜてジェノベーゼソースにしました。熱々のパスタに絡めて給食に+1品。おすそ分けした大地の家、紙風船のメンバーにも好評でしたよ。

緑のカーテンとして植えた胡瓜の収穫はまだこれから。

残暑の疲れに胡瓜の丸かじりで乗り切っていきたいと思います。



毎朝夕、お休みの日も水やりなどのお世話をしてくださったドライバーさんたちにお礼としてミニトマトをプレゼントしました♪

○夏の行事○

夏の楽しみといえばプール。
お風呂が好きメンバーは多いのですが、冷たい水となると尻込みしたり、体調を崩すメンバーもいるので、あみとものプールはいつも温水。まるで露天風呂です。そのせいか、プールに入ると、みんなまったり。。。温かいお湯に浸かって体がほんわか、ゆったり伸びてきます。体が伸びたら、金魚すくい競争やビーチボールラリー、水中テニスで盛り上がり、得意な泳ぎの披露もして大はしゃぎ。プールの時間はほんの20分ほどなので、いつまでもプールで一人遊びをして名残惜しそうにするメンバーもいました。



夏の楽しみの中でもう一つご紹介したいのは流しそうめん大会。大地の家と合同で開催するこのイベントは、もはや夏の恒例行事となりつつあり、そうめんを流す雨樋の設置も手馴れたものになってきています。

流しそうめんの日の給食は、メンバーのお母さん特製かき揚げと決まっています、調理担当の職員と息の合ったコンビネーションで、50枚近くのかき揚げを揚げてくれました。これが絶品で、もはや愛実名物になっています。めんつゆももちろん手作り。だしの効いたおいしいめんつゆで、お腹いっぱいそうめんを平らげました。

流しそうめん以外にもスイカ割り、真昼の花火もありイベント盛り沢山な一日でした。

○素敵な時間○

8月12日、ピアニストの石原明子さん、ソプラノ歌手の瀬川高代さん、ヴァイオリニストの角田育代さんにお越しいただき、「夏の音楽会」が開催されました。

本場に移転してから二度目のコンサート。今回は、バッハやショパン、ポツリ二など馴染みのある曲の他、夏の音楽会らしく、「～海によせて～海/われは海の子/椰子の実」のトリオ演奏もしていただきました。ホール全体に歌声や音が鳴り響き、目を閉じると波の音が聴こえて来るようでした。今年の夏はすっかりしない天気が多かったのですが、音楽に耳をすませていると、夏の青空や潮風、夏の思い出が眼に浮かんで来て、爽やかな夏気分を体感できました。

シメは全員参加での「とんでったバナナ」合唱。この歌はリズムカルで歌詞が面白く、多くのメンバーが小さい頃から親しんできた曲ですが、今回、一緒に歌ってみて実は6番までであると知り、びっくりしました。6番までで1冊の絵本を読み終えたようなそんな楽しさのある曲。みんなで声を合わせて「バナナ♪バナナ♪バナナ！！」と歌い、笑顔いっぱいの音楽会が終わりました。

また、近いうちにお越しいただきたいと密かに願っています。9月21日にはセンチュリーホールで名フィルの演奏会があり、こちらも楽しみにしているところです。



大地の家のページ

(P5~6)

流しそうめん

暑い日が続きましたが、大地の家のメンバーは夏バテ知らずで元気いっぱい。夏らしい活動を満喫し、日々を楽しく過ごしました♪ 今回は夏の活動の中から、流しそうめんの様子を御紹介します。



流しそうめんは昨年から行っている愛実友だちの家との合同企画。しかし今回はそれだけではありません。スイカ割りと花火も同時に楽しんじゃおう、という盛沢山な内容なのです。



まずはスイカ割りからのスタート。テーブルの上のスイカめがけてメンバーが順番にプラスチックのバットをぶつけていきます。おそろおそろバットを当てるメンバーもいれば、力いっぱい振り下ろすメンバーも。自分の順番以外ときには涼んで休憩したり応援したりしながら、みんなでスイカ割りを楽しみました。しかし柔らかいプラスチックのバットでは固いスイカはなかなか割れず…。最終的にはこっそり包丁で切れ目をいれてようやく割ることができました。今回使用したスイカはメンバーも食べやすい種なしのもの。種なしスイカは種だけでなく、あの皮の特徴的な黒い縞模様もないんです。割ることはもちろん、珍しい見た目にもメンバーたちは興味津々でした。



スイカ割りのあとはお待ちかねの流しそうめんです♪ テラスには雨どいで作ったなんちゃって竹台が登場。上流では今年も流し奉行(?)のドライバーKさんがスタンバイ。メンバーのためにどんどんそうめんを流してくれます。しかし手作り竹台は少し傾斜がきつめなため、そうめんはあっという間に流れていってしまいます。箸や豆腐すくい片手に苦戦するメンバーたち…。ただ大変なだけに上手くすくえたときの喜びも倍増するようで、自分ですくったそうめんを食べるメンバーはとても嬉しそうでした。当日はとても暑かったことと、昨年の反省をふまえ、ホールで涼みながらゆったりそうめん&スイカをいただきました。それ以外にも、暑い中給食スタッフの方が揚げてくださったかきあげや、炊き込みご飯のおにぎりなどもあり、大満足のお昼ご飯でした。





お腹を満たしたあとは、テラスに出て手持ち花火に挑戦。最初は勢いよく噴き出る火にびっくりして手を離してしまうメンバーもいましたが、次第に慣れてきたようで、ニコニコと楽しんでいました。明るい昼間だったため、少し見えづらい部分もありましたが、普段あまり体験することのない花火を楽しむことが出来て、メンバーたちはとても嬉しそうでした。

たくさんプログラムがあったため、慌ただしくあっという間に一日が過ぎてしまいました。メンバーもアシスタントも夏気分を十分に味わうことができました(^▽^)

梅干し作り

プリンせっけん、味噌などなど、これまでいろいろなものを手作りしてきた大地の家。今年は新たに梅干し作りに取り組んでいます☆ 今回作るのはグラニュー糖漬け梅干しと昆布梅干しの2種類です。最初の仕込みから土用干しまで、メンバーが頑張っ作業に参加してくれました。まずは梅に傷をつけないよう慎重に梅のへそを竹串で取っていきます。メンバー一人あたりのへそとりノルマはなんと1kg。最初はたくさんの梅を目の前に途方に暮れていたメンバー&アシスタントも、綺麗に取れたときの快感にやみつきに。爽やかでほんのり甘い梅の香りを楽しみながら、あっという間に作業終了。



お次は漬け込み作業です。塩などの調味料と梅が互い違いになるように容器に入れていきます。おもりを乗せてしばらくそのまま漬け込み、味をしみ込ませたら、次はいよいよ土用干しです。よく漬かった容器の中の梅を取り出し、ざるに並べて天日干しをします。急な雨に細心の注意を払いながら、何日間か外に干し続けて…。

さぁみんなで頑張った梅干しは上手にできるのでしょうか？ 結果はまた次回のお会報でお知らせします♪



日々の活動の様子など随時更新中です♪
大地の家のブログ <http://ameblo.jp/daichi-no-ie/>

紙風船のページ

(P7~10)

月一会

紙風船では月に一度みんなでテーマを決めて取り組む月一会を実施しています。今回は7月と8月に行った内容をご紹介します。

7月 ボランティア交流会

今回はボランティア交流会という事で社会人の方から、親子で参加するボラさん、同朋大学の学生の方などあわせて7名のボランティアさんが参加してくださいました。

まず始めに自己紹介。順番に次の人を指名しながら、お互いの事を紹介していきました。そして、新しいボランティアさんもいましたので、もっとボランティアさんの事を知ってもらおう〇×クイズやボランティアさんに主役になってもらうジェスチャーゲームも行いました。お題に合わせて愉快的なジェスチャーをボラさんたちはしてくださり、笑いあいの楽しい時間を過ごすことができました。



そして最後にメンバー手作りの缶バッチ&プレートも無事にプレゼントすることができました。さすがに広い紙風船のスペースも総勢30名ほどになると狭く感じるほどでしたが、こうして紙風船に足を運んでくださるボランティアさんに感謝し、また今後も長くお付き合いしていけるといいなと感じました。

8月 一人暮らしについて考えよう

今回は担当のメンバーさんが「もし僕が一人暮らしをしたら」というタイトルでスライドを使って発表を行いました。

障害者基礎年金はいくらももらっていて、一人で生活するには収入がいくら必要か……。自分が生活するために必要なヘルパー等の支援の時間や内容、またどんなところに住みたいかなど実際に探してきた間取りを見せてくれたり……。



そして、その発表を聞いた後、他のメンバーさんも一人ひとり自分だったらどうかなあと考えてみました。結婚して家族がほしい人、気の合う仲間と共同生活をしたい人など、一人ひとり自由に考えイメージしました。現実みんな不安でいっぱいなのが正直な気持ちのようですが。。けれど、今回の月一会で何か自分の中で将来について少しでも考えてみる事ができたことは貴重な時間だったと振り返ってみて改めて感じています。

午後には「働く」という事についてみんなで考えました。とても難しいテーマでしたが、他の人の意見、考えを聞くことにより紙風船の中でメンバー、アシスタントともお互いの気持ちを共有し合う、見つめ直す大切な機会になったように感じました。

人形劇活動

今年度に入り紙風船では、ほぼ月に1回のペースで公演を行っています。外部からよんで下さったものや自主的に施設で行ったもの、パペットフェスティバルなど様々です。

主に新作を公演してきましたが、公演の度に課題を見つけては振り返り…試行錯誤しながら、みんなで練習を繰り返しています。

新作が出来たとはいえ、移動や準備などやっぱり大変だなあと感じる事もありますが、平日にも公演ができるようになったことはやっぱり嬉しいですね。公演を重ねてきて、人形劇をして様々なお客さんの笑顔や拍手、声を生で聞いて感じる事ができることは、とてもかけがえのない大切な体験なんだと改めて感じています。メンバーもお客さんがいることで、公演ではいつも以上に力を発揮しています☆



キャラクターグッズ
缶バッジも作っています！



メンバー手作りのお
礼状を作りました



表現活動も引き続き継続中です☆



メンバーからの一言

今年の夏はとても暑く、私は珍しく高熱で入院したけど、7月24日の公演には無事に出ることができて良かったです。みなさんもまだまだ暑いと思いますが、健康には気をつけましょう！

S. N

<メンバーの思い>

「表現するということ」

櫻井 直人

紙風船の活動の中に表現活動という時間がある。テーマを持って、役柄を演じることで、演技の幅や表現を広げるためのもので、普段、公演に参加していないぼくでも、作品の役柄を演じることがある。

実際にやってみて、場面に合わせたセリフのテンポや声の大きさ、気持ちの込めかたなど気をつける部分がたくさんあり、演じることの難しさを肌で感じて、公演でたくさんの観客を前に演じているみんなのすごさが改めてわかった。見ているだけではわからないことも、たくさんあった。

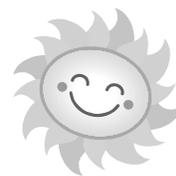
同じ役柄でも演じる人が変われば、印象が違ってくるのが面白い。

そんな日々の積み重ねが公演に結びついて、力になっていると思う。

表現するということは、演じることだけではなく、音響や小道具などのいろいろな物が合わさって、作品という形に変わり、見ている人に思いを伝えていくことだと思う。

公演には参加できていないけれど、そんな素晴らしいことにこれからも自分の出来る形で力になっていけたらいいなと思います。

このコラムも一種の表現だと思いますが、うまく伝わっていますか？



<協力者の思い>

「幸せな時間」

金城 希久江

私は紙風船に来て5年目を迎えました。「えっ もう そんなに？」と思いますが、紙風船の話を語り出したら、それは長い話になりそうです。

個性的なメンバー達 個性的なアシスタントの面々 人形劇の話 とっても厳しい時もある人形劇の練習 ハラハラ・ドキドキの公演 苦難に苦難を重ねた新作ができるまで・・・ 人形劇以外の活動の話 そして紙風船といえば、笑顔 笑い声 楽しかった事 嬉しかった事 満足感 充実感 達成感！！

ですが、もちろんあります。 悩んだり 困ったり 悲しかったり 怒ったり イライラしたり とっても疲れてしまったり・・・

今 思い出しても こんなにたくさんの思いや感情を味わってきたんですね。

これは とっても幸せな時間を過ごしてきたように思います。

仲間たちと一緒に 一生懸命 生きてきたんだなあ と思います。

私はもうしばらくこの（愉快？）ではなく（素敵）な仲間たちと幸せな時間を過ごしていけたらと思っています。

【公演だより】

第126回 2011年6月16日(木)

薬物依存の会ダルク ジョイントイベント 「ほくたちにできること」

名古屋ダルク&愛実の会ジョイント企画の中で人形劇をさせていただきました。礼拝堂の中には十字架があり、パイプオルガンが置いてありました。本番は会場が広かったため、少しお客さんが遠くに感じたりもしましたが、お見送りの時には実際に人形にふれてもらったり、間近でお話をすることができました。ダルクの皆さん準備から、後片付けまで本当にお世話になりました。ありがとうございました。

第127回 2011年7月24日(日) 新生保育園にて 「ほくたちにできること」

西区の天神山にある保育園にて公演を行いました。隣には教会があり、今回この教会を建て替えるその最後のイベントに紙風船をよんでくださいました。公演では、人形劇に対する子供たちの反応が素直でとても嬉しかったと同時に、子どもたちのふとした一言から、演出内容を考えさせられる事もありました。また次の公演に向けて頑張ります！



第128回 2011年8月21日(日) 北なごやパペットフェスティバル

「かめさんのありがとう」



当日は雨にも関わらずフェスタは大賑わい。前列では子どもたちが真剣に見てくれていて、後ろの方までお客さんがいっぱいでした。公演後には、むすび座さんの人形劇を観劇。前座から観客の心をしっかりとつかみ改めてプロの技を生で感じることができました。紙風船にとってもとてもよい勉強になりました。

第129回 2011年8月26日(金) 社会福祉法人愛光園にて 「かめさんのありがとう」

愛光園の広いお部屋の中で人形劇をしました。仲間たちがすぐ目の前で観てくれています。楽しさを感じてもらえたらいいなと思いながら役者たちは張り切って演じました。最後に紙風船のテーマソングを歌いました。歌にのせた紙風船の思いが観てくれた皆さんに届いていたらなあと思います。愛光園で初めて公演することができて嬉しかったです。

第130回 2011年9月1日(木) キリスト教教育主事研修会 紙風船にて

「ほくたちにできること」

人形劇「ほくたちにできること」を公演しました。みなさんととても反応がよく、楽しく公演することができました。公演後の交流会で、メンバーたちも活発に意見交換をして有意義な時間を過ごしました。また、みなさんとお会いできたら嬉しいなと思います。



9月～12月までの公演予定

2011年10月9日(日) パペットフェスタひまわりホール 14:15～ 「ボンタとたっくん」

※ パペットフェスタ前売りチケットあります(2日間会員価格1250円)
ご希望の方は紙風船までご連絡ください

今後の公演予定は 詳しくはホームページをご覧ください



人格の根っこ

南 寿樹

すてきな写真絵本「子どもと森へ出かけてみれば」(小西貴士フレーベル館)に出会った。
 「じょーくんも ふみやくんも 上機嫌で 森へ出かけました じょーくんなんて お花の
 かんむりを かぶったくらいでしたから! ところが… 森のひろばの 木のブランコをめぐ
 って ふたりの まっすぐな想いが ぶつかりました
 — ちょっと ブランコを留守にただけだ! という じょーくん
 — ボクが来たときには だれも つかっていなかった! という ふみやくん
 上に 下に のっかって のっかられて 15分 はじめは 応援していた 仲間たちも
 ふたりの迫力に 圧倒されて 森は静かです
 息があがって ほどけた ふたり 駆けよった仲間に 叫びました
 — みんな 帰れっ! 帰ってほしい!!
 みんなは 困ったけれど 後ろを振り返りながら 森から帰ってゆきました
 ふたりきり 沈黙 伏し目 カッコウの歌声 ぎこちなく ひと言 ふた言
 そのうち ふたりは 笑っていました」

小西氏は八ヶ岳のふもとと清里高原に住む写真家であり、保育士でもある。彼は、野外保育の
 場面を18万枚もの写真に収め、編集して1冊の言葉つきの写真集にまとめた。先ほどの場面
 は、「花のかんむりをかぶって照れているじょーくん」「泥だらけで取っ組み合いをし困った泣
 き顔をしているふたり」「森の中で背中を向け伏し目でうなだれるふたり」「笑い合うふたり」
 の4枚の写真で構成されている。大自然の中で、全身・全力でぶつかり合い、それでも自分た
 ちで関係を修復していく体験…これこそが人格の根っこづくりではないだろうか。

この本を紹介してくれた金森俊朗(北陸学院大学)は言う。「ふつう、15分も取っ組み合い
 のけんかを見守るなんてしないだろう」——ともすれば「やめなさい」とすぐに制止する大人。
 ここで子どもたちの自分たちで関係を修復する力を信じ、どれだけ待てるかが問われる。
 揺れ苦しむ内面世界を全力で共感的に受け止めてくれる大人を子どもたちは求めているようだ。

そんな大人のひとりが和歌山の小畑耕作氏(きのかわ福祉会理事長)だ。「もっと学びたい」
 「もっと主体的に、自分たちで考え、決め、活動したい」という卒業生の思いを受け止め、学
 べる作業所(シャイン)を立ち上げた。普段は、一般教養という大学のような授業をしてるそ
 うだが、この夏見学に行った時は、12名のメンバーは宿泊研修の計画を話し合っていた。「夕
 食は、どんなメニューがいいと思いますか」「黙っていたらいけないということですよ」「部屋
 割りも考えましょう」「めんどくさい」「めんどくさいとはなんですか」…自由な雰囲気の中で
 メンバーは思いを出し合っていた。小畑氏をはじめスタッフはニコニコと見守っている。小畑
 氏は言う。「主体的に自立した豊かな生活を営む力を仲間とともに身につけさせてあげたい」
 ここでも人生の主人公になる「人格の根っこ」づくりを感じた。「人格の根っこ」は、きっとそ
 の年齢にふさわしい生活を思う存分に充実させるところにこそ作られるにちがいない。

2011年度 第1回定例会報告 ～愛実の会の理念の具体化のために～

今年度最初の定例会が7月30日(土)に開催されました。参加者14名(正会員数51名)愛実の会の理念は2010年4月木場町への移転事業を前に、これから大切にしていきたいことを正会員みんなで思いを出し合い、将来を描きながら作られたものであります。

定例会の役割として、愛実の会の理念(ミッション)を具体化し、その実現を目指して行くことをまず会の初めに確認することができました。そして、今回は下記の2つのテーマに絞って活発な意見交換がなされ、有意義な時間をみんなで共有することができました。

★話し合いから出された現状と主な意見

テーマ1 「コミュニケーションの充実」

移転して3つのデイが1か所に集められ1年が過ぎ、大きなトラブルもなく無難に過ごすことができました。しかし広くなった空間で、ゆとりはできたものの相互の理解や協力・分かち合いなど交流や信頼関係について言うと、何か物足りなさが感じられます。

- ・顔と顔を合わせての挨拶が基本
- ・朝、デイ全体で集まりアシスタントの朝礼を行ってはどうか
- ・メンバーとのコミュニケーションは、時間も長くかかるが係わりを大切に
- ・アシスタントと親との話し合いの場を作る(親の会への参加やデイの見学会など)
- ・いろんな情報の共有についても、できるだけ直接顔を合わせて伝えて行く
- ・イベントを通して楽しい交流ができるといい

テーマ2 「地域とのつながりを深めるために」

地域に開放された施設として、アシスタントはメンバーと地域社会との橋渡しを担うことが大切であり、また災害時における地域の協力はとても重要であることから、もっと積極的に地域につながり認められていくことが必要である。

- ・地域の方々を招き、デイの活動の見学会、ふれあい企画のお祭りやイベントを開催
- ・地域のお祭りへ参加、子ども会・ボランティアサークル・小学校等の体験の受け入れ
- ・近隣の方と顔を合わせた時は挨拶できる関係作り
- ・地域との交流担当窓口を設置
- ・近所のお店、学校などデイの外に出て行き、愛実の会の存在をアピール
- ・愛実の会の会報を町内や学区に回覧

まとめ

全体での大きなイベントを計画していくことは、準備から大変な面があるが、地域の人たちを巻き込んで楽しく進められるといい。労苦を共にして、一つの目的に向かってみんなで創り上げていくことが、コミュニケーションを作るよい機会につながると思う。

「小窓から」 12

大野 義徳

先般発生した東日本大震災では、数多くのボランティアが全国から集まり力を合わせて活躍されているようだ。被災された方々の手となり足となり助けとなって、とても感謝されていると聞く。その一方で、それがボランティアの自己満足と受け取られてしまい、必ずしも被災者の為になっていないものの中にはあると報道されてもいた。

さて、愛実のメンバーは、親御さんやアシスタントが手となり足となって、毎日の生活を送っている。私が勤め始めたときにまず言われたことは、「介助のときにメンバーと目線の高さを合わせること」だった。飲み物を差し上げるときも、車椅子に座っているメンバーの横に立って見下ろす形でコップを差し出しても受け取ってもらえず、私も椅子に座って同じ目線になると、飲んでいただけると学んだ。

だれでもそうだけれど、「上から目線」からの介助はキライだ。「介助してやってるのに何で・・・」と言われることは、メンバーも嫌だし、またアシスタントが陥りがちな闇でもある。

「下にいる」メンバーを「こっちへ上がって来いよ」と上に引き上げる姿勢でいると、その立ち位置から、いつの間にか「引き上げてやっている」という上から目線になりやすいのではないだろうか。そうではなくて、同じ位置にいるメンバーを、「ひとつ上の段階へ持ち上げる」、そんな縁の下の力持ち的な役割が、アシスタントなんだろうと思う。そうすれば上から目線になりにくいのかな、と自戒を込めて感じる。自己満足に終わらない介助、単なる個人的な達成感を越えた何かに、難しいことだけれど少しでも近づいていきたい。

◆◇ご寄付のお知らせ◆◇

2011年7月より、NPO法人セカンドハーベスト名古屋様をとおして、寄贈品のご寄付をいただいています。

定期的に、食品やお菓子、お野菜等をいただき、デイでのティータイムや給食の材料として活用させていただいています。

皆大変喜んでおり、感謝しております。

ありがとうございます。



NPO愛実の会 寄付者名 (順不同・敬称略)

2011年6月1日～9月4日

★ 賛助会費

伊藤和昭 渡辺 幸 阿部健二 早川吉彦 成瀬絵里子 瀬口昭代 今枝ミサ子
 榛葉英子 岡本恵子 村上裕子 吉田 弘 石田伊志子 安達清海 都築典子
 杉本 誠 柴田京子 福島 真 矢澤綾子 前山美恵子 竹内淳子 石崎亮史朗
 中澤實郎 佐藤全弘 宇田ゆき子

★ 紙風船

荒川敦子 宮川 等 秋山公夫 榛葉英子 長谷川耕司 山下 純 五十嵐ベティ
 宮原祐子 岡本恵子 斉藤 良 早川吉彦 成瀬絵里子 永井 猛 佐藤千萬子
 牧野眞保 北島敦子 瀬口昭代 矢澤綾子 石崎亮史朗 浜嶋一史 川口いづみ
 梶野和恵 南 寿樹 酒井淳子 小出朋子 五十川俊一 赤星実環 村瀬きよ子
 潮田則行 潮田茂子 石井昌也 品川美樹 品川健一郎 可知一三四
 中森照子 (複数回) 中森由哉 (複数回) 新生保育園有志

★ 寄付・その他

宮川 等 下村徹嗣 佐野都吾 浦野松子 佐々木伸夫 野崎弘一 野崎典子 (複数回)
 岩崎武男 宮崎正和 梅村亜恵 瀬口昭代 市原信太郎 市原誉子 市原麦穂
 矢澤綾子 榛葉英子 山中 高 大薮礼子 日比野房子 吉岡満智子 長谷川耕司
 鶴崎祥子 村上裕子 小田 泉 湯元睦美 土屋美恵子 榊原喜代子 五十嵐ベティ
 福島 真 水野享好 比企敦子 南 寿樹 前山美恵子 尾崎志満子
 竹内淳子 堀尾勇夫 島しづ子 中森照子 (複数回) 中森由哉 (複数回)
 京都みぎわキリスト教会 イエローシート (複数回)

★ 土地・建物

早川吉彦 瀬口昭代 南 寿樹 杉山清美

任意団体「障がい者・友だちの会・愛実」受付分 (順不同・敬称略)

2011年6月1日～9月4日

秋の澄みきった空にトンボが季節の移りを運んできました。
 地震・津波・原発の被災者の方々の日々は、一向に進んでいない復興が現状です。
 足早に来る東北の秋は、厳しい冬を控えています。
 先に見える日々が与えられますようにと祈っています。
 私たちの活動を覚えてご協力くださいまして、御礼申し上げます。
 今後共、あたたかく見守り、育ててくださいますようお願い申し上げます。
 有り難うございました。(長村)

★ 寄付金個人・教会

安藤香代 稲田喜水 渡井秀雄 原田 忠 松下智恵子

★ 賛助会費個人

吉谷尚之 (複数回)

★ 土地建物基金個人

岩田太万亀

ご協力ありがとうございました。

引き続きのご支援よろしく願いいたします。

イエローレシートキャンペーン実施中

愛実の会では毎月11日「イオン・デー」に開催される『イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン』に愛実の会も参加しています。現在ジャスコ名古屋みなと店様、マックスバリュ千種若宮大通店様、イオン大高店様にボックスを設置させていただいています。当日はメンバーと店頭にて呼びかけを行っています。ぜひ、ご来店の際はご協力よろしくお願ひします。



愛実の会は多くの祈りとご協力によって支えられてまいりました。長い間応援して下さい下さり亡くなられた方々

宮崎寿子様(豊明市)	田中明美様(東浦町)	尾形芙蓉子様(名古屋市)
志賀親則様(川崎市)	近藤トク工様(岡崎市)	矢野常彦様(岡崎市)
山村ミヨコ様(岡崎市)	長井潤様(名古屋市)	片山晶子様(川崎市)
西山恭介様(豊田市)	野崎民雄様(名古屋市)	丹下進様(大府市)

生前のご援助に心から感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動(NPO)法人 愛実の会

- 居宅介護事業所あみ(ホームヘルプ)
- 障がい者デイセンター愛実(生活介護)

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24
 TEL: 052-693-5897 FAX: 052-691-7889
 E-mail info@aminokai.com
 ホームページ http://www.aminokai.com

「NPO愛実の会」ご支援のお願い

郵便振替 座番号 00850-6-187490
座名称 特定非営利活動法人 愛実の会

- ◆ 賛助会員 NPO愛実の会の活動に対しての費用
- ◆ 土地建物取得 将来のNPO土地建物取得費用
- ◆ 紙風船夢づくり 紙風船の人形製作費、公演活動に関する費用

1口1,000円(NPO資金は1口3,000円)何口でも結構です。
 ご支援していただける項目を振込用紙に記載の上ご協力お願いいたします。

※ 年2回(夏号と冬号)に「振込料金加入者負担」の「払込用紙」を同封させていただいています。ご利用下さい。